

第1回能代・山本地域医療構想調整会議 議事要旨

- 1 日 時 令和6年8月28日（水） 午後6時から午後8時まで
 2 場 所 オンライン会議
 3 出席委員 委員18名中17名出席

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
楊 国 隆	能代市山本郡医師会長	熊 谷 真 理 子	秋田県看護協会能代・山本地区理事
工 藤 茂 将	能代市山本郡医師会監事(有床診療所代表)	菅 原 裕 宏	全国健康保険協会秋田支部業務部長
大 塚 博 徳	地域医療機能推進機構 秋田病院長	岩 村 庄 英	特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長
太 田 原 康 成	能代厚生医療センター病院長	門 田 真	藤里町地域包括支援センター所長
加 藤 裕 治 郎	能代山本医師会病院長	堀 井 智 昭	能代市市民福祉部健康づくり課長
郡 司 啓 文	島田病院長	細 田 孝 広	藤里町町民課長
大 淵 宏 道	森岳温泉病院長	小 松 仁	三種町健康推進課長
小 林 聡	能代市・山本郡歯科医師会長	菊 地 俊 平	八峰町福祉保健課長
小 笠 原 達 志	秋田県薬剤師会能代山本支部副支部長		

4 議事等

(1)報告事項

①令和5年度の病床機能報告

②令和7年度地域医療介護総合確保基金（医療分）に係る事業提案の募集と基金の延長について

【事務局】

（資料により説明）

※委員からの意見なし

(2)協議事項

①PDCAサイクルを通じた地域医療構想の推進について

【事務局】

（資料により説明）

※委員からの意見なし

②秋田県医療の目指す姿の実現に向けた取組について

【事務局】

（資料により説明）

a)入院

【能代厚生医療センター長】

・構想を達成するためには、どのような役割分担を進めていくかに尽きるのでないかと思う。

【能代山本医師会病院長】

・ 当院では、急性期から回復系の病床（地域包括ケア病床）を 10 月から少しずつ増やしていく予定を立てている。

【ＪＣＨＯ秋田病院長】

・ 人口減少に伴い急性期の患者が減るのはそのとおり。
・ 急性期はＤＰＣで在院日数が決められており、その日数で治らない患者は慢性期となる。いわゆる高齢者が多くなっていくということは短い日数で治らない患者が増えるということであり、当然、相対的に急性期の割合が減少し、回復期や慢性期が増えていく。

【能代厚生医療センター長】

・ 急性期経過後の患者の受け皿の不足はなく、現状は回っている。

【ＪＣＨＯ秋田病院長】

・ 能代厚生医療センターとは密に連絡をとりながら、コロナの流行期から連携が良くできており、非常に風通しの良い関係である。
・ 医療のあり方の中で、急性期、回復期、慢性期になるにつれ、医療費は確実に減らされている。
・ 病院側はそのような状況の中で、人件費を削り、医療費をかけないような医療体制を敷いていくことになり、それが正しいのかと思うところがある。
・ 急性期に非常に目が向いているが、当地区は慢性期病床の数も実際足りないのも、慢性期に関して手厚い医療を与えられるような仕組みが大事なのではないと思う。県で解決できない問題であるが、そういった課題があり、移行が難しくなっている。

【能代山本医師会病院長】

・ 能代厚生医療センターと連携はよく取れている。
・ 当院では 35 床の慢性期病床があるが、慢性期病床は急性期に比較して手厚く医療が必要な病棟とは考えていない。そのような患者の多くは、在宅や施設でもできるような人達なので、そこまで医療資源を大きくさかなくてもよいと考えている。例えば 3 ヶ月に 1 回の血液検査というような医療的処置を受けるために、2～3 年入院している患者もいる。
・ できるだけ満床になるように回して、もし、そこで受け入れてくれる他の慢性期病床があった場合は、次に入院する患者が決まったらそういった患者を退院させるというようなかたちでやってきた。
・ 急性期のような手厚い医療をする場所ではなく、支える医療ということで考えていけば良いと思う。
・ 当院の役割としては慢性期病床に入院している透析患者が数人おり、そういう行き場のない人たちも受け入れているというような状況。
・ 地域包括ケア病床に関しては 2 ヶ月間入院しながら、それなりの診療報酬を得られる

ということで病院としてのメリットも強く、診療報酬上もメリットを感じているので、増やしていきながら病院の診療報酬のアップに繋がればと考えている。

【森岳温泉病院長】

- ・慢性期患者について、能代厚生医療センターを中心にして、ＪＣＨＯ秋田病院や能代山本医師会病院から患者を紹介いただくが、そういった患者は、尿路感染症や肺炎を発症し、決して、手がかからないというわけではない。
- ・急性期経過後の患者は地域で、頑張っ診ていかなければならない。
- ・最近の患者の流れとしては、能代厚生医療センターから、当院で一生懸命受け入れたいと思っているが、結果として対応できず、ＪＣＨＯ経由で最終的に当院に来るといった患者が多くなってきている。
- ・当院としてもより迅速に、連携を密にして進めていきたいと思っているが、医師や病棟が変わった等の事情により、どうしようもない状況もある。そうした中でも、慢性期病院としての役割をしっかりと担っていきたい。

【能代市山本郡医師会長】

- ・院長同士の連携ももちろん重要だが、それを支える地域医療連携室に従事するスタッフの教育も非常に重要と考えている。
- ・在宅医療、介護を受け皿とした地域包括ケアの充実ということが、今度大事になってくると考えている。
- ・在宅医療連携推進センターを活用しながら、地域の在宅、医療介護、自治体と連携してやっていくという方向で動くことになっているので、医師会として在宅の方で今後充実させていきたいと思っている。

b)救急

【能代厚生医療センター長】

- ・深刻な点は全国的に看護師が不足している中で、どのように役割分担と連携を進めていくかだと思っている。

【ＪＣＨＯ秋田病院長】

- ・当院は医師の高齢化が進んでおり、輪番体制を維持できなくなることを申し出ている。
- ・若い医師の多い能代厚生医療センターに頑張っいただくという方針をとっている。
- ・下り搬送の体制はできていないが、その下り搬送の体制づくりを当院として積極的にやっていかなければならないと考えている。
- ・施設に入所している高齢者は、昼近くになって具合が悪くなる患者が多いので、そういった入所者に関しては、当院の外来の終了後の午後に積極的に受診するようにということと呼びかけて、能代厚生医療センターの負担を減らしていきたいと考えている。

【能代山本医師会病院長】

- ・ 資料では令和4年まで搬送件数が伸びていたが、令和5年以降かなり減っている。
- ・ 原因としては、時々断るということもあるが、当院の当直医は全員大学からの派遣となっており、大学の先生によっては断っていることも要因としてある。
- ・ 当直の先生たちにも頑張ってもらいたいと言っているが、できるだけ能代厚生医療センターの負担が大きくならないように、当院でも可能な限り対応していきたいと考えている。

【特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長】

- ・ 入所者の方の救急搬送に関して、嘱託医の先生と相談しながら実施。
- ・ 主な搬送先は能代厚生医療センターであり、場合によって能代山本医師会病院や湖東厚生病院へも搬送している。
- ・ ACPについては、入所の時点で本人や家族に緊急時の医療処置等含め、確認をしている。
- ・ 特にコロナで面会等が制限されている中で、できるだけ入所者の状態に変化がありそうな、又は重篤な状態になりそうな方については、制限をできるだけ緩和して、できるだけ家族に来ていただき、家族と新しい状況を共有しながら、タイムリーに今後の方針を相談する機会を持つようにしている。

【医務薬事課長】

- ・ 救急医療に関して、下り搬送の導入を検討している医療機関はあるか。
- ※導入を検討している医療機関はなし

【JCHO秋田病院長】

- ・ この地区に病院間を行き来する救急車があれば良いと考えている。

【医務薬事課長】

- ・ 地域包括医療病棟の導入を検討している医療機関はあるか。
- ※導入を検討している医療機関はなし

【JCHO秋田病院長】

- ・ 在院日数や救急搬送患者の割合等ハードルが高いが、引き続き勉強していく予定。

c)周産期

【能代厚生医療センター長】

- ・ 当院の分娩件数はまだある状況。
- ・ 今後とも県北医療圏における分娩取扱施設は当院と大館市立総合病院で担っていくことが現実的である。

【能代市山本郡医師会長】

- ・ 検診等の周産期になる前の管理は開業医の先生がやるべきもの。
- ・ 開業の先生が3人いるが、うち1人の先生が退職され、閉院となった。
- ・ 現実には2人の先生が頑張っているが、もう1人の先生も実施が厳しくなっている。
- ・ 医業承継、新規開業について対応を模索している。

【島田アドバイザー】

- ・ 入院医療に関しては、大塚先生が発言したように、自然に機能分化が進んでいる認識。
- ・ 回復期は増加傾向ではあるが、慢性期は療養病床の医療区分や、病床の利用率などの問題があって、なかなか転換が進まない実状がある。
- ・ 周産期医療の集約化に関しては、出世数の減少や医師不足等により進んでいかざるを得ないと認識している。
- ・ その中で、実際、妊婦に対して、交通費や宿泊費等の補助制度も今年の4月から始まったので、そういったものを利用しながら進めていけばいいと考えている。

③合同会議の開催形式について

【事務局】

（資料により説明）

※事務局案に全員異議なし

④モデル推進区域の伴走支援について

【事務局】

（資料により説明）

※さらに必要となるデータや支援について意見等は特になし

(3)その他（森岳温泉病院の単独病床機能再編計画について）

【森岳温泉病院長】

（資料により説明）

※全員異議なし